

能「望月」式

中仙道守山宿の宿屋・甲屋の亭主、小沢形部友房（シテ）が登場します。

シテ：小沢友房

彼はかつて信濃国の住人、安田庄司友春に仕えていましたが、友春は従弟の望月と口論し命を落としてしまいました。自分も命を狙われていると知った友房は、本国へ帰らず、ここで宿を開いているのでした。

そこへ、友春の妻と、子の花若が追手を逃れてやってきました。

ツレ：安田友春の妻

子方：花若

面：曲見

長旅おつかれさ… あああなたは奥方様！

そなたは小沢形部ではありませんか

再会を喜ぶ主従のもとへ、なんと今度は仇の望月秋長本人がやってきました。

ワキ：望月秋長

望月は友春を殺した咎で都に留められていましたが、嘆願が聞き届けられ、本領をことごとく返してもらい、信濃へ帰る途中でした。

間狂言：太刀持

ここで宿を取ろう、私の名前は出さないように

はっ

望月は用心して、宿を取る際自分の名を出さないよう従者に言います。が、従者はうっかり望月の名前を口にしてしまいます。

これは天のご意思だと、敵討ちの決意をした三人は、母子で首髻女の一行に扮し、友房は用心して、二人を望月の座敷へ連れて行きます。

友春の妻と花若は、望月の前で箱王（曾我兄弟）の仇討ちの曲を謡います。

友房も、獅子頭に身に着けて舞を舞うこととなります。

お前は何者だッ！

お前が殺した友春の子、花若。そして家臣の小沢形部だ！

ここで、友房は獅子頭を脱ぎ捨て、舞うふりをして、望月に近づき、取り押さええます。

お前は主従は無事仇を討つことができたのです。

花若が鞆鼓を、友房が獅子を舞うさまを心地よく鑑賞していた望月は、酒が回り眠くなってきます。